

小学校学習指導要領・中学校学習指導要領

総則

文部科学省
初等中等教育局教育課程課
教育課程企画室長 白井 俊



独立行政法人教職員支援機構

目次

1. **今回の改訂と社会の構造的変化** —社会に開かれた教育課程の実現—
2. **何ができるようになるか** —育成を目指す資質・能力—
3. **どのように学ぶか**
—「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善—
4. **カリキュラム・マネジメント**
—教育課程を軸とした学校教育の改善・充実—
5. **何を学ぶか** —具体的な教育内容の改善・充実—
6. **何が身に付いたか** —学習評価の充実—

OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）の結果

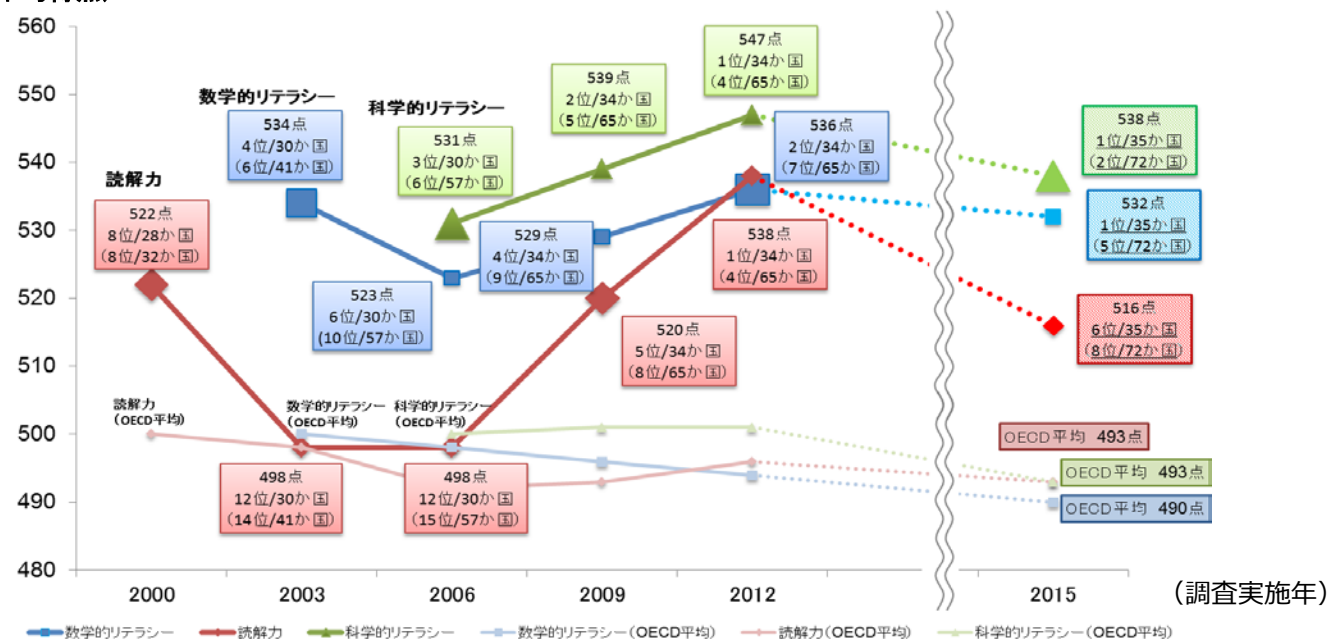
- 各分野において、日本は国際的に見ると引き続き、平均得点が高い上位グループに位置。一方、前回調査と比較すると、読解力の平均得点が有意に低下しているが、これについては、コンピュータ使用型調査への移行の影響などが考えられる。

平均得点及び順位の推移

※ P I S A 調査：O E C D が 15 歳児（我が国では高校1年生）を対象に実施

（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」

（平均得点）



国際数学・理科教育動向調査（TIMSS 2015）の結果

平均得点及び順位の推移

※各国・地域の得点は、1995年調査における基準値（500点（対象児童生徒の3分の2が400点から600点に入るよう標準化））からの変化を示す値である。

（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」

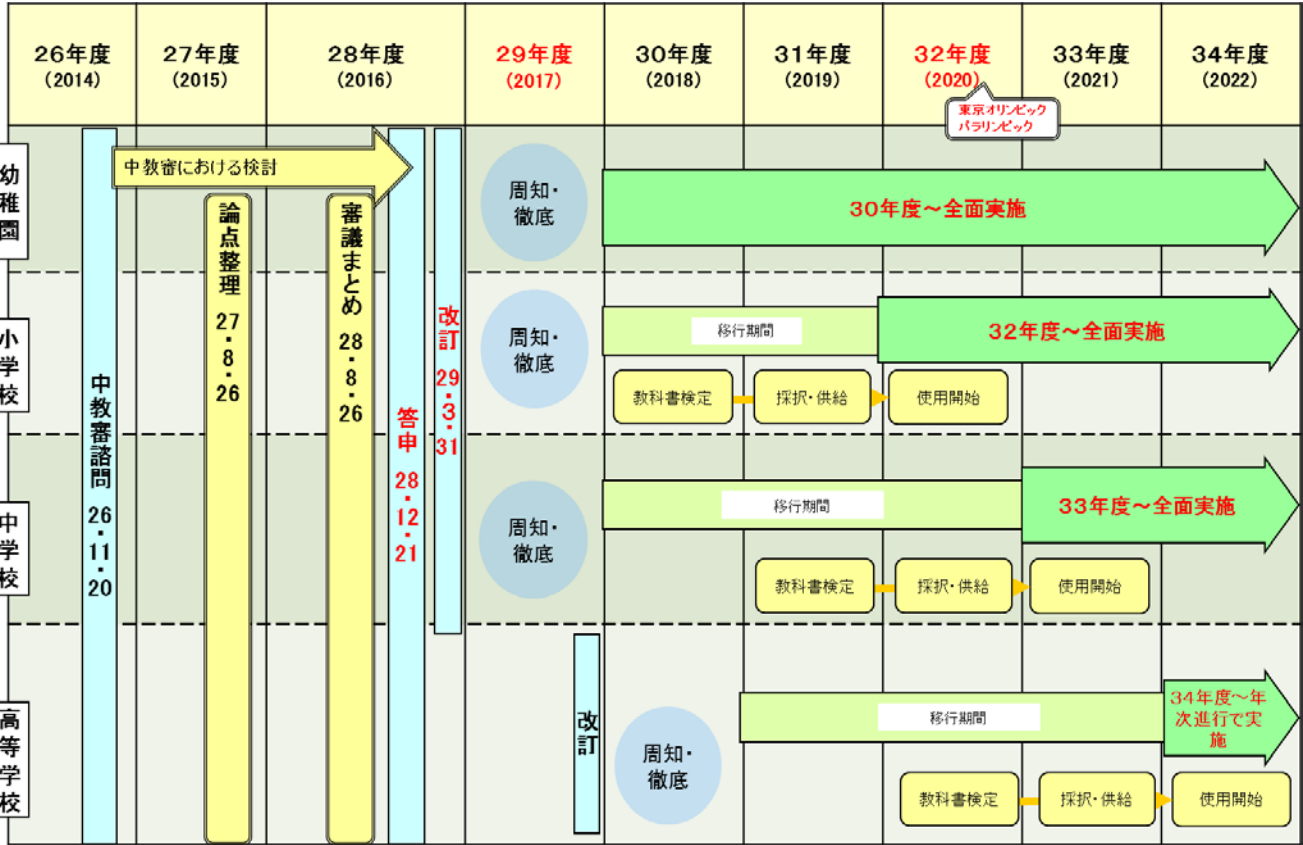
		1995	1999	2003	2007	2011	2015
小学校4年生	算数	567点 (3位/26か国)	(調査実施せず)	 565点 (3位/25か国) 有意差なし	 568点 (4位/36か国) 有意差なし	 585点 (5位/50か国) 有意に上昇	 593点 (5位/49か国) 有意に上昇
	理科	553点 (2位/26か国)	(調査実施せず)	 543点 (3位/25か国) 有意に低下	 548点 (4位/36か国) 有意差なし	 559点 (4位/50か国) 有意に上昇	 569点 (3位/47か国) 有意に上昇
中学校2年生	数学	581点 (3位/41か国) 有意差なし	 579点 (5位/38か国) 有意差なし	 570点 (5位/45か国) 有意に低下	 570点 (5位/48か国) 有意差なし	 570点 (5位/42か国) 有意差なし	 586点 (5位/39か国) 有意に上昇
	理科	554点 (3位/41か国) 有意差なし	 550点 (4位/38か国) 有意差なし	 552点 (6位/45か国) 有意差なし	 554点 (3位/48か国) 有意差なし	 558点 (4位/42か国) 有意差なし	 571点 (2位/39か国) 有意に上昇

◆改善は見られるものの、国際平均に比べて、日本の中学生は学習の楽しさや実社会との関連に対して肯定的な回答をする割合が低いなど、引き続き学習意欲面で課題がある。

※生徒質問紙調査（対象：中学校2年生）において、下記項目につき、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した生徒の割合の合計
(出典) IEA国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS2015) 質問紙調査結果より文部科学省作成

	数学		理科	
	日本	国際平均	日本	国際平均
数学・理科の勉強は楽しい	52%	71%	66%	81%
数学・理科を勉強すると日常生活に役立つ	74%	84%	62%	85%
他教科を勉強するために数学・理科が必要	67%	80%	36%	73%
志望大学に入るために良い成績が必要	73%	85%	59%	77%
将来望む仕事につくために良い成績が必要	65%	81%	51%	72%
数学・理科を使うことが含まれる職業につきたい	21%	52%	25%	60%

学習指導要領改訂に関するスケジュール（予定）



※特別支援学校指導要領等については、平成29年4月28日に告示され、学校段階ごとにスケジュールに従って全面实施される予定である。

人工知能が進化して、
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

今学校で教えていることは、
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

人工知能（AI）の発達や情報化、グローバル化の進展など、
急激な社会的変化の中でも、子ども達に、
未来の創り手となるために必要な資質・能力を
確実に備えることのできる学校教育を実現する。

- 社会に開かれた教育課程
- 資質・能力を三つの柱で整理
- 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善
- カリキュラム・マネジメント

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

- 「（職場体験のために）喜んで学校に協力しますが、生徒さん達を何日間かお預かりすることに、どんな教育的な意義があるのかはよくわからないんですよ。」（ある商店主の声）
- 「（学校行事などの情報発信はたくさんあるのですが）算数や国語などについて、今学校で何を学んでいるのか、よくわからないんですよ。」（ある保護者の声）

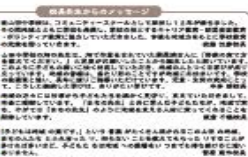
～横浜市東山田中学校区地域学校協働本部の事例～

～横浜市東山田中学校区地域学校協働本部の事例～

～横浜市東山田中学校区地域学校協働本部の事例～

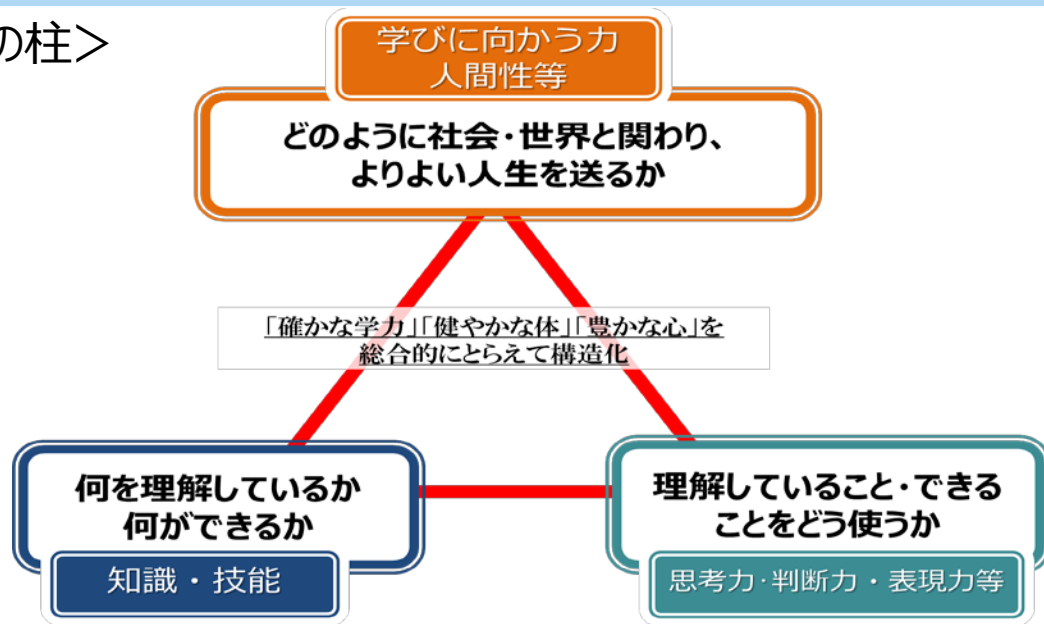
このまちで育つ子どもたちへ、30年後の社会を創る子どもたちへ、私たちができることはそれぞれの立場で力をつくしていきたいと考えています。

赤字：教室で学ぶ
青字：地域に出て学ぶ、校外学習等

[illegible]

2. 何ができるようになるか ―育成を目指す資質・能力―

<資質・能力の三つの柱>



中教審答申（H28.12抜粋）

「知識や技能は、思考・判断・表現を通じて習得されたり、その過程で活用されるものであり、また、社会との関わりや人生の見通しの基盤ともなる。このように、資質・能力の三つの柱は相互に関係しあいながら育成されるものであり、**資質・能力の育成は知識の質や量に支えられていることに留意が必要**である。」

学習指導要領（平成29年3月31日公示）における規定の例

各教科等の「目標」「内容」の記述を、「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力の3つの柱で再整理

中学校学習指導要領 <改訂後>

第3節 数 学

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

2 内 容

A 数と式

(1) 正の数と負の数について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。【知識及び技能】

(ア) 正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。

(イ) 正の数と負の数の四則計算をすること。

(ウ) 具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。【思考力，判断力，表現力等】

(ア) 算数で学習した数の四則計算と関連付けて，正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現すること。

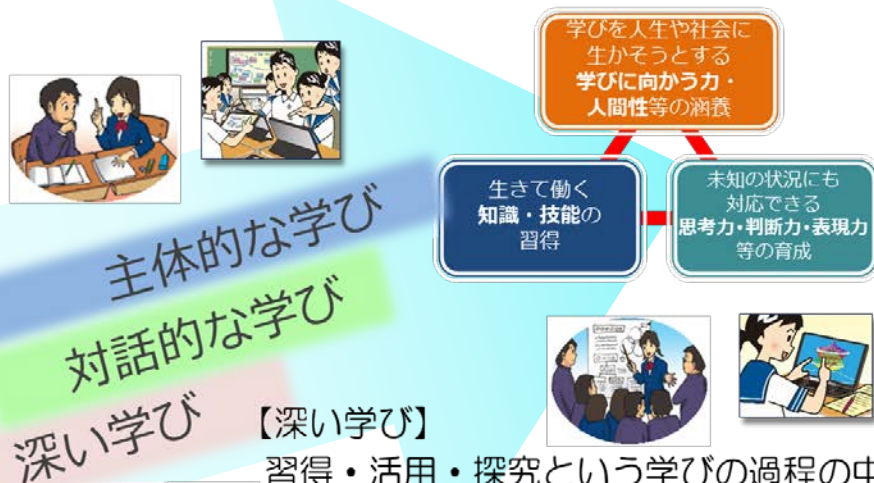
(イ) 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること。

3. どのように学ぶか—「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善— (イメージ)

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

「**主体的な学び**」が実現できているか。



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。



主体的・対話的で深い学びの本質は「授業デザイン」

「・・・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。」

(小学校・中学校学習指導要領解説総則編より抜粋)

「見方・考え方」（小学校社会科の例）

「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」

- 「『社会的な見方・考え方』は社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法であり、時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けるために必要となるものである。」
- 「・・・深い学びの実現のためには、『社会的な見方・考え方』を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。」

（小学校学習指導要領解説社会科編より抜粋）

「なお、各教科等の解説において示している各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、当該教科等における主要なものであり、「深い学び」の観点からは、それらの「見方・考え方」を踏まえながら、学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要である。」

(小学校・中学校学習指導要領解説総則編より抜粋)

○「実践事例」の公表

* アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の事例をまとめ、ホームページにて公表

(120事例:平成29年8月時点)

④ 授業実践事例

主眼的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む実践事例を紹介します。

ピクトグラムについて

- 海センターでは主眼的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の質的改善により実現したピクトグラムでイメージ化しています。
- 各実践事例のピクトグラムは、その授業で実現された主な姿を要約しています。[（意味付けの仕方）](#)、[（作成方法）](#)
- 本案内、本冊におけるすべての姿を要約したものでありません。
[ピクトグラムの一覧へ](#)

学校名：安曇野市立三郷小学校

教科等：5年算数科（平成27年10月）

単元名：面積

対話する必然性を生み出し深い理解へ

見通しを持つ

思考を表現に置き換える

知識・技能を活用する

実践の背景

- 学校教育目標「自ら学ぶ子ども 心豊かな子ども 明るくたくましい子ども」を掲げる県下有数の学校です。一人一人の児童に確かな学力を育むため、「主体的・協働的な学び合い」を進めています。
- 学習指導要領を作成する際には「[私の授業改善の課題](#)」を明記することが決められており、授業者が自身の課題を明確にしながら授業改善に取り組めるように工夫されています。
- 同じ校区の中学校との合同研修会（授業公開を含む）を開くこと、地域の子どもたちの育ちを同じく見守るため、小学校6年生、中学校3年生の学びをつなげようとしています。

授業改善のアプローチ

- 算数科の研究テーマは「自分の考えを数学的に表現しながら主体的・協働的に学ぶ実践づくり」に関する研究です。重点グループの教員は互いに授業を見合いながら研究を進めてきました。
- 本実践の授業者は算数の児童が話し合う場面に習熟し、仲間同士で話し合いがなかなか進んでいく実態を捉えました。そこで、日常の学習過程から意見を言い合える関係性の構築に努めました。
- 本実践が対話を通して深い理解に至る学習過程を改善するとともに、タブレットPCを授業で活用

④ 授業

④ 授業

④ 授業

④ 授業

④ 授業

④ 授業

① 提示された図から情報を得る

△ABC△DECの面積が等しい

面積が等しいから
二辺のペアが
等しい

初めは事なかてから底辺が等しいし、
あとは平行な辺から高も等しいな

図を提示した教師は「面積の等しくなる三角形のペアがあるよ」と問いかけました。子供たちは身を乗り出して図を見つめ、**最終まで学習を活用して口々に予想を発言**します。教師は子供たちと「△ABC△DECの面積が等しい」ことを共有し「底辺と高さが等しいから面積も等しくなる」という視点を確かなめつけました。そんな中、もう一つのペアを見つけた児童が発言したくてウズズいています。

② グループで課題解決を図る

うう(疑問)とさかい

さうかもいれないかと
角にもなめさてきて！

そっか！△ABCが
高さをとるんだ！

グループで話し合う場面です。うまく説明でき

③ 追究方法を見通す

△ABC△DECのペアも
面積が等しいと頭をつ
すけど・・・

？ ！ ？

授業の最後ではそれを一人て
説明できるようにしたい

その児童は「△ABCとDECのペアの面積も等しい(③)」と語りました。「そうそう！「なぜ？」。子供たちが一言につぶやき始めます。**対話する必然性**が高まったと判断した教師はこのペアの面積も等しいことを告げ、子供たちと追究方法を相談しました。その結果、「個人→グループ→全体」と考えたら「最後は一人て説明できるようにする(③)」という学習の見通しを持つことができました。

④ 学習の成果を確かめる

私が書いた説明です

もう一度、説明してみよう

全体で説明を聞き合う場面です。教師は説明

4. カリキュラム・マネジメント —教育課程を軸とした学校教育の改善・充実—

＜カリキュラム・マネジメントの3つの側面＞

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

「教科等横断的な視点に立った資質・能力」

「小学校・中学校学習指導要領解説総則編」（文部科学省）＜抄＞

（１）学習の基盤となる資質・能力

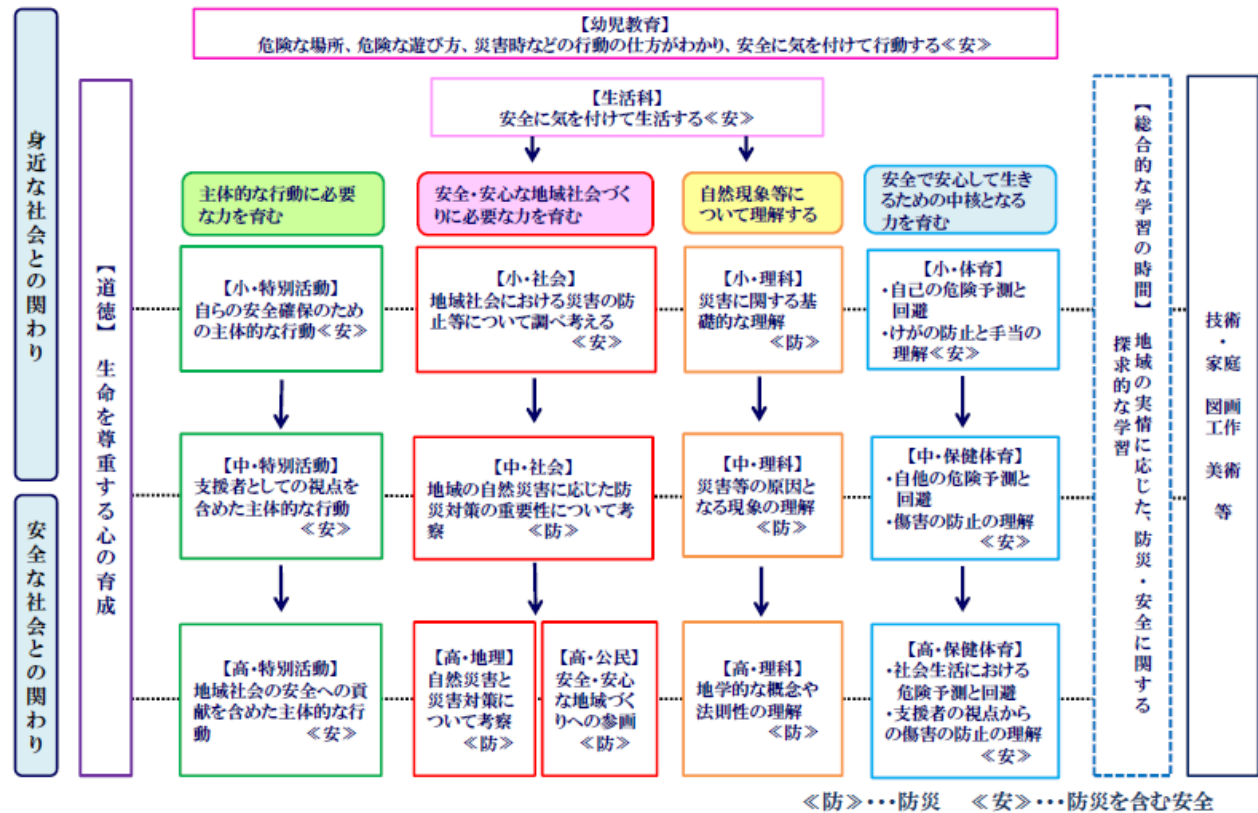
- － 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。（総則第２の２の（１））

（２）現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- － 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。（総則第２の２の（２））

防災を含む安全に関する教育のイメージ

教科等横断的な視点から教育課程を編成



5. 何を学ぶか ―具体的な教育内容の改善・充実―

〔 改 訂 後 〕

小学校の標準授業時数

〔 現 行 〕

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
国語	306	315	245	245	175	175	1461
社会	－	－	70	90	100	105	365
算数	136	175	175	175	175	175	1011
理科	－	－	90	105	105	105	405
生活	102	105	－	－	－	－	207
音楽	68	70	60	60	50	50	358
図画工作	68	70	60	60	50	50	358
家庭	－	－	－	－	60	55	115
体育	102	105	105	105	90	90	597
特別の教科 である道徳	34	35	35	35	35	35	209
特別活動	34	35	35	35	35	35	209
総合的な 学習の時間	－	－	70	70	70	70	280
外国語活動	－	－	35	35	－	－	70
外国語	－	－	－	－	70	70	140
合計	850	910	980	1015	1015	1015	5785

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
国語	306	315	245	245	175	175	1461
社会	－	－	70	90	100	105	365
算数	136	175	175	175	175	175	1011
理科	－	－	90	105	105	105	405
生活	102	105	－	－	－	－	207
音楽	68	70	60	60	50	50	358
図画工作	68	70	60	60	50	50	358
家庭	－	－	－	－	60	55	115
体育	102	105	105	105	90	90	597
道徳	34	35	35	35	35	35	209
特別活動	34	35	35	35	35	35	209
総合的な 学習の時間	－	－	70	70	70	70	280
外国語活動	－	－	－	－	35	35	70
合計	850	910	945	980	980	980	5645

※ この表の授業時数の1単位時間は、45分とする。

※ 各教科の授業について、15分程度の短い時間を利用して学習活動を行う場合については、総授業時間数や学習活動の特質に照らし妥当かどうかの教育的な配慮に基づいた判断が必要である。

中学校の標準授業時数

〔 改 訂 後 〕

	1学年	2学年	3学年	計
国語	140	140	105	385
社会	105	105	140	350
数学	140	105	140	385
理科	105	140	140	385
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保健体育	105	105	105	315
技術・家庭	70	70	35	175
外国語	140	140	140	420
特別の教科 である道徳	35	35	35	105
特別活動	35	35	35	105
総合的な 学習の時間	50	70	70	190
合計	1015	1015	1015	3045

〔 現 行 〕

	1学年	2学年	3学年	計
国語	140	140	105	385
社会	105	105	140	350
数学	140	105	140	385
理科	105	140	140	385
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保健体育	105	105	105	315
技術・家庭	70	70	35	175
外国語	140	140	140	420
道徳	35	35	35	105
特別活動	35	35	35	105
総合的な 学習の時間	50	70	70	190
合計	1015	1015	1015	3045

※ この表の授業時数の1単位時間は、50分とする。

※ 各教科の授業について、15分程度の短い時間を利用して学習活動を行う場合については、総授業時間数や学習活動の特質に照らし妥当かどうかの教育的な配慮に基づいた判断が必要である。

小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）

プログラミング教育の必要性の背景

- ・AIが進化する中で、学校教育において、人間の強みを引き出していくことがより一層必要。
- ・自動販売機やロボット掃除機などの文明の利器が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることが必要。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がりつつあるのではないかと指摘もある。

プログラミング教育とは

子供たちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力

6. 何が身に付いたか ―学習評価の充実―

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の 4 観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

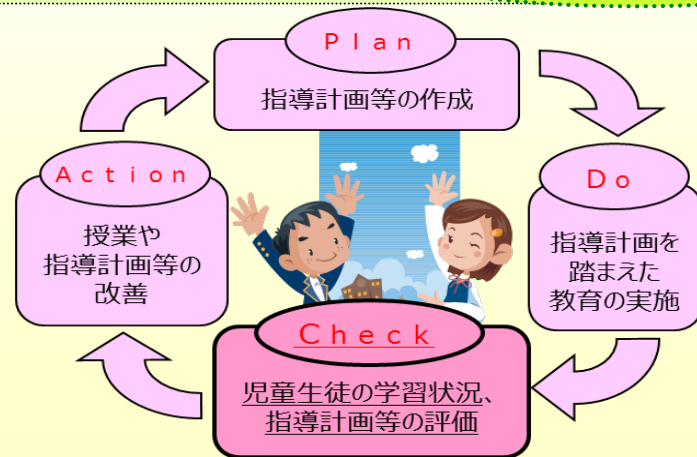
思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



学習評価について

- 観点別評価については、小・中・高等学校の各教科を通じて「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の**3 観点に整理**。
- 「学びに向かう力・人間性」には
 - ①「**主体的に学習に取り組む態度**」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分
 - ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることに留意することが必要。
- 毎回の授業で全ての観点を見取るのではなく、**単元や題材を通じたまとまりの中で、学習・指導内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要**。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、**学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない**。子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関る自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、**意思的な側面を捉えて評価することが必要**。

小学校学習指導要領・中学校学習指導要領

総則

文部科学省

初等中等教育局教育課程課

教育課程企画室長 白井 俊



独立行政法人教職員支援機構